

## 第VI章 周辺における既応調査事例

本書は、西南戦争遺跡の価値を明確化し国指定史跡にすることを視野に入れ、国庫補助事業として実施した調査成果を報告するものであるが、主要地域である豊岡台地においては、これとは別の原因で実施し、西南戦争に深く関わる資料が検出された発掘調査事例がある。舟底遺跡第6次・第9次調査、舟底遺跡令和元年度・2年度確認調査、藤原遺跡第2次調査である。これら3件の成果は、豊岡台地一帯における戦闘状況等を復元するうえで欠かせないものであり、本章を設けて、概要を報告することとする。

なお、いずれも調査主体は熊本市教育委員会であり、本報告書が刊行されている。

### 1. 舟底遺跡 第6次・第9次調査の概要（第1図・第2図）

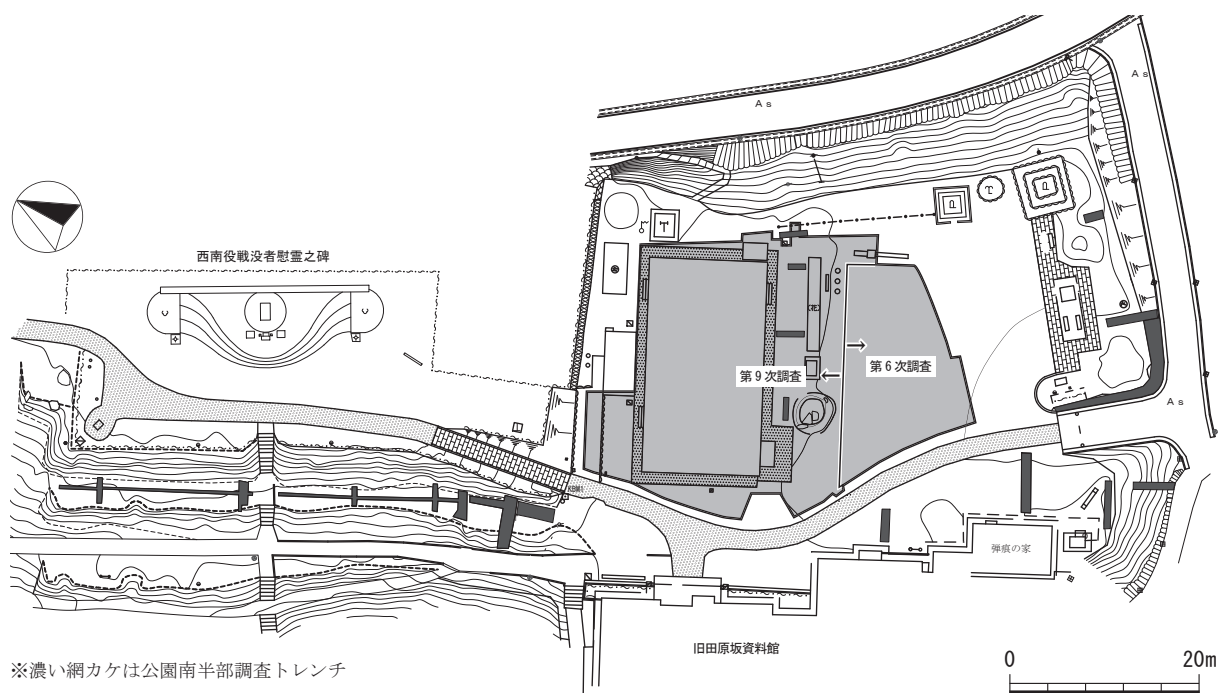
老朽化した田原坂資料館に代わり、平成27年度に開館した熊本市田原坂西南戦争資料館の建設に伴って、二次にわたり実施した。調査期間は第6次調査が平成24年9月5日～同年11月29日、第9次調査が平成25年6月3日～同年9月3日である。所在地は北区植木町豊岡字水本1014、調査面積は893.8㎡で、本報告「田原坂公園南半部調査区」（第V章-12）に隣接し、一部重複している（第V章第3図）。

出土遺物は少量であるが、殆どが中世後期～近世初期（16世紀～17世紀前半）に位置付けられ、瓦質土器火鉢・浅鉢が主体を占める。当該期の土師器・陶磁器の供膳形態は無く、明らかに偏った組成であることが特徴といえる（第V章第180図参照）。遺構も殆どは中世後期～近世初期の可能性が高く、掘立柱建物跡・柵跡・瓦質土器の埋設土坑などが検出されており、重複が無いことから短期間の造営であったと考えられる。遺物の器種組成、造営期間などにおいて特異な遺跡といえる。報告書では加藤清正によるとされる周辺各地の軍事道路整備を念頭におき、「一般集落と考えるより田原坂整備修築のための工人集落の一部の可能性」を指摘している。可能性として肯首すべき見解といえる。

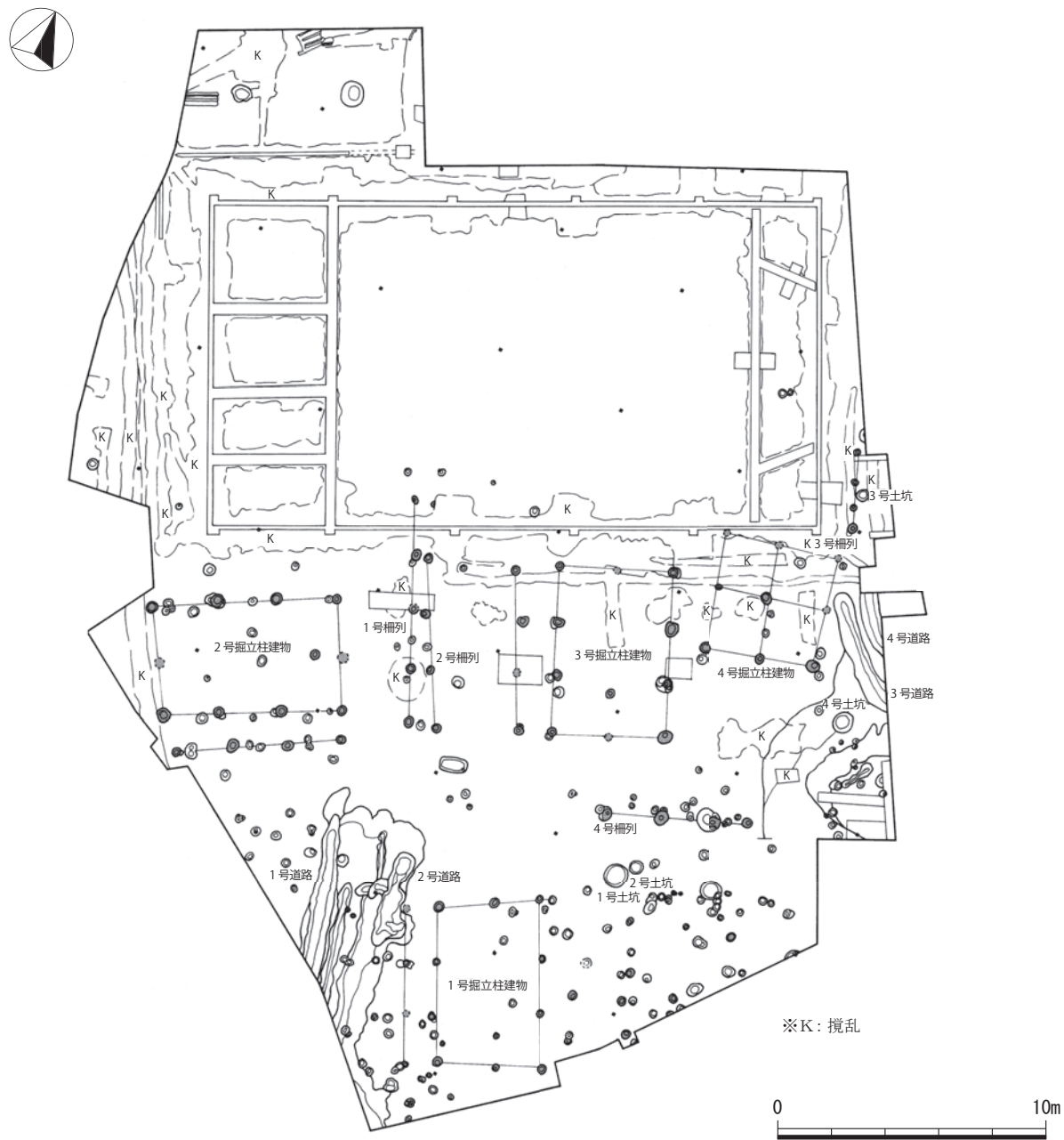
他、近代に降る道路跡も検出されており、これは西南戦争時に使用されていた可能性も考慮される。

#### 【参考文献】

熊本市教育委員会 2016『熊本市の文化財第57集 舟底遺跡Ⅰ 第6次・第9次調査、田原坂資料館改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』



第1図 舟底遺跡第6次・9次調査地 位置図（1/250）



第2図 舟底遺跡第6次・9次調査地 全体図 (1/250)



1号・2号柵列跡, 3号・4号掘立柱建物跡 (南より)



2号土坑遺物出土状況

## 2. 舟底遺跡 令和元・2年度確認調査の概要 (第3図～第7図)

太陽光発電所の建設計画に伴って埋蔵文化財存在状況の確認についての依頼申請があり、これを受け調査を実施した。調査期間は令和2年1月21日～同年6月10日、令和3年1月28日～同年3月22日である。所在地は北区植木町豊岡字休居 2254・255・256、調査面積は8572㎡である(第V章第3図)。

調査地は、小支谷により開折され東方向に伸びる小丘陵の平坦面のほぼ全域であるが、現況は農地や住宅地として利用され、旧地形を保っていないことが明らかであり、また、遺物の分布が明確でなかったことから、平成21年度に実施した踏査をもとに選定した調査対象地からは除外されていた。

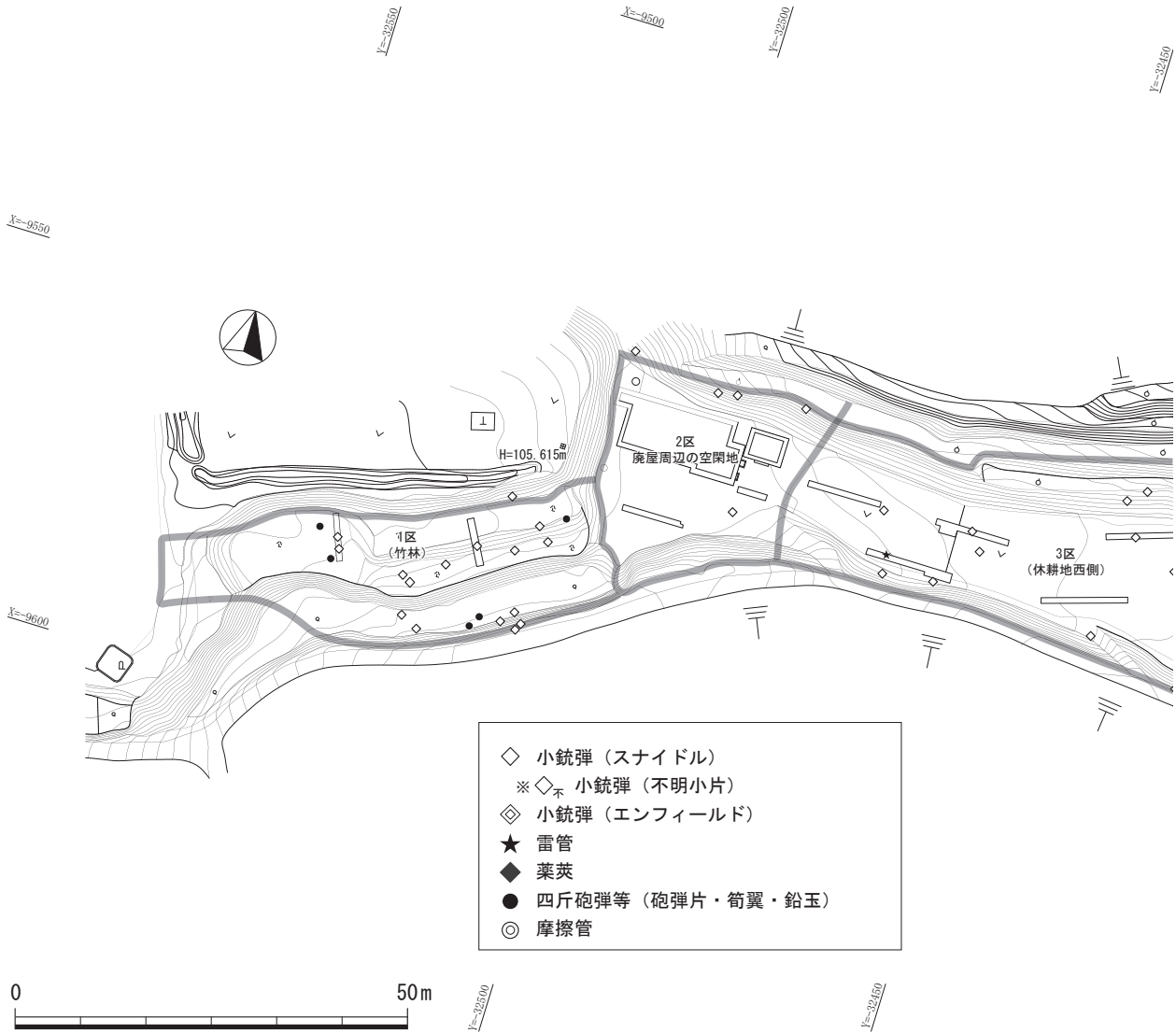
トレンチは31カ所設けたが、土層の残存状況が悪く、西南戦争時と判断できる遺構は認められなかった。ただし、全域において西南戦争関連の軍用遺物が検出された。便宜上、分けた区域のうち南東側の7区においてはスナイドル銃薬莖が偏在し、小銃弾は平坦部だけでなく南側斜面からも数点を検出している。また、着弾の衝撃が強かったために砕けたものとみられる型式不明の小銃弾片は7区にのみ認められる。北東側の4区では摩擦管が検出され、その周辺には四斤砲弾片が多く、比較的大形の弾殻片はいずれも北側斜面において認められる。以上、特に火点を示す薬莖や摩擦管が検出されたことから、これまで注視されていなかった台地の東側においても戦闘があったことが明らかとなった。報告書では、7区の状況から、政府軍兵が南側の丘陵下から攻め上がり、これに薩摩兵が応戦して至近距離での銃撃戦が展開されたこと、4区の状況から、この付近に薩摩軍が砲台を設置し、特定はできないものの本調査地北側に置かれた政府軍の砲台と間で砲撃戦が展開されたことを想定している。

### 〔参考文献〕

熊本市教育委員会 2024「舟底遺跡 令和元年度・令和2年度存在状況確認調査区」『熊本市の文化財第115集 熊本市埋蔵文化財発掘調査報告集 令和5年度』



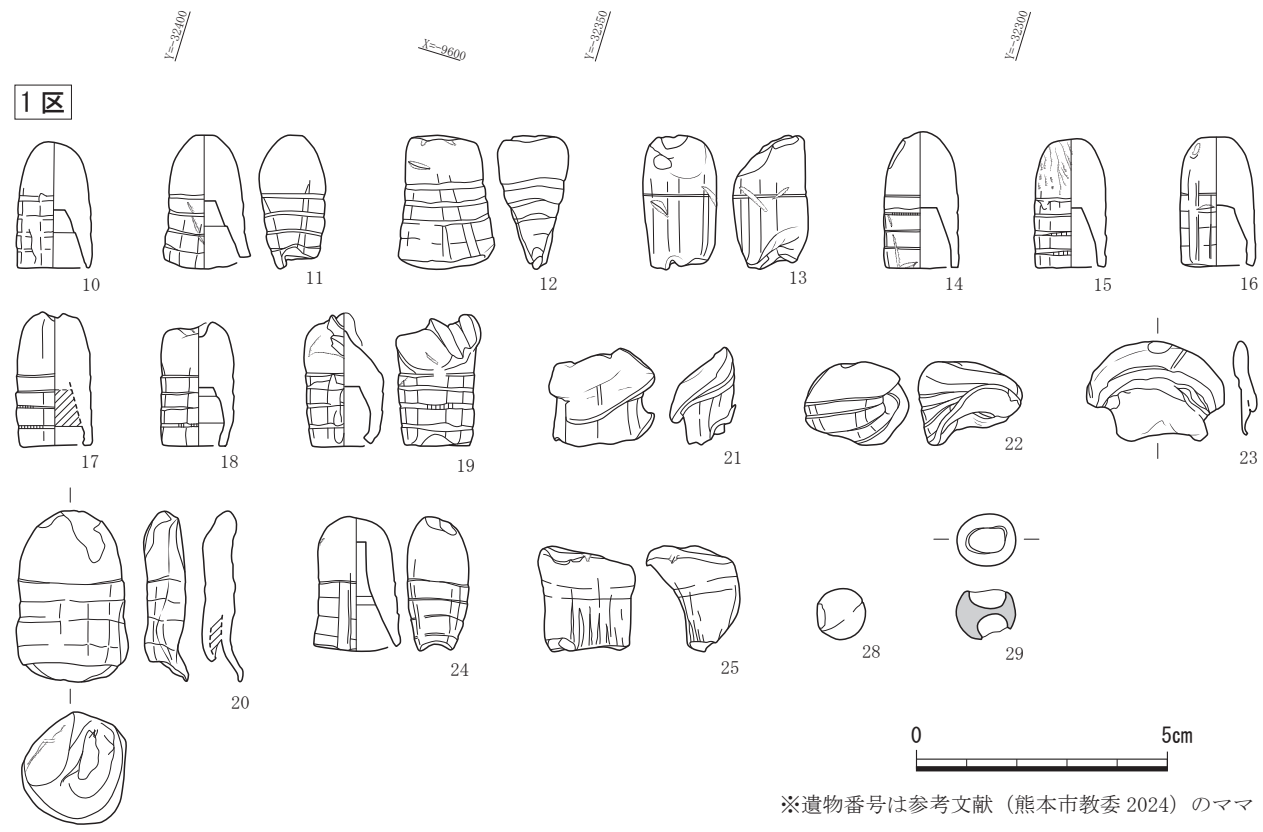
調査地から南西方向を見る



第3図 舟底遺跡令和元・2年度確認調査 西南戦争関連遺物分布図(1/900)

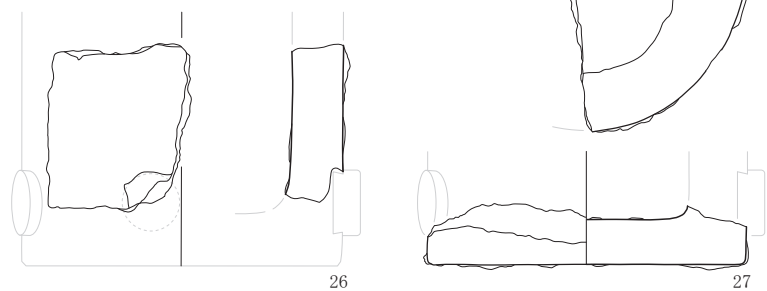
第23表 西南戦争関連遺物出土位置一覧表

種類		1区 竹林	2区 空地	3区 休耕地西	4区 休耕地東	5区 果樹畑西	6区 果樹畑東	7区 果樹畑南	小計	総数
小銃弾	スナイドル銃弾 (うち小碎片)	16	5	17 (2)	7 (3)	3	13 (3)	11 (1)	72 (9)	77
	エンフィールド銃弾				1				1	
	不明小片							4	4	
雷管	雷管			1				1	2	14
薬莢	スナイドル銃薬莢			1	2		2	7	12	
四斤砲弾片等	砲弾片(弾殻)	3		2	7		1	2	15	33
	砲弾片(箭翼のみ)			2	3			1	6	
	鉛玉(霰弾子など)	2		5	3	1		1	12	
摩擦管					2				2	2
その他の鉄製品		5		7	10	3	1	2	28	28
銭貨	寛永通宝	1					2	2	5	7
	半銭銅貨	1			1				2	
その他の金属製品	鉛の溶解小塊			4					4	37
	刀の目貫				1				1	
	銅製釘				2		1	1	4	
	煙管	1	1	5		4		3	14	
	その他の銅製品	1		4	4	3		2	14	

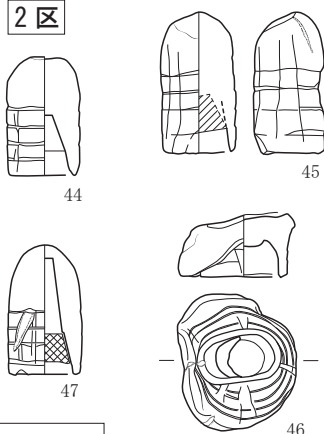


第4図 舟底遺跡令和元・2年度確認調査 西南戦争関連遺物1

1区



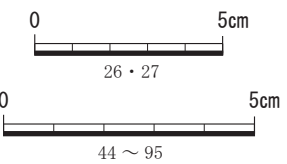
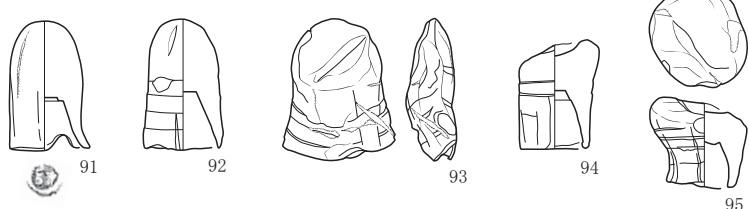
2区



3区



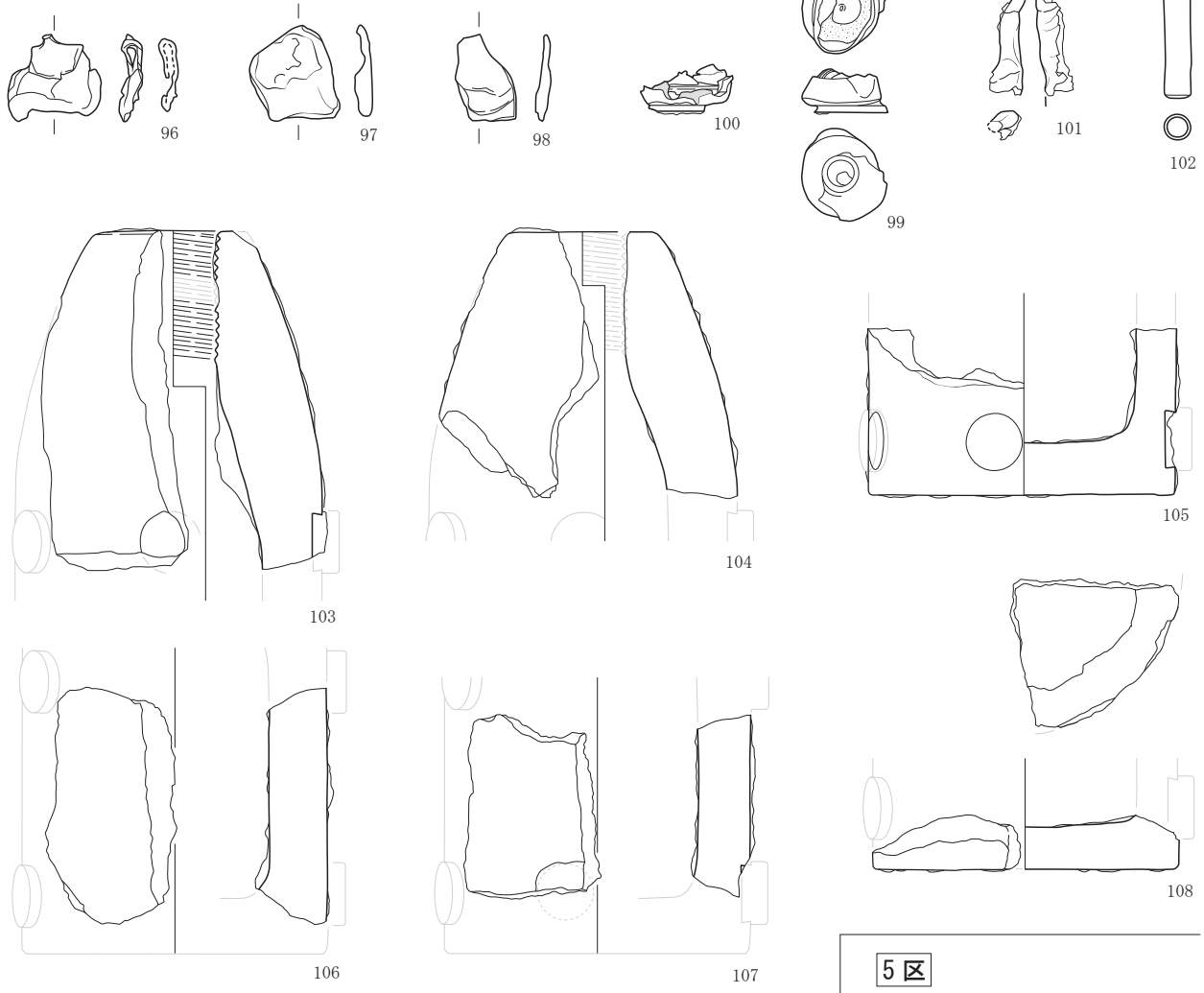
4区



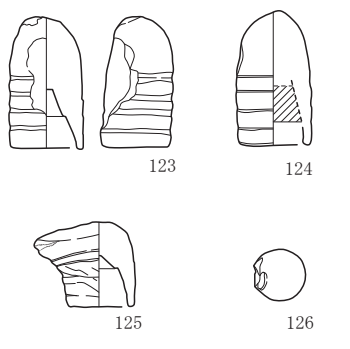
※遺物番号は参考文献(熊本市教委 2024) のママ

第5図 舟底遺跡令和元・2年度確認調査 西南戦争関連遺物2

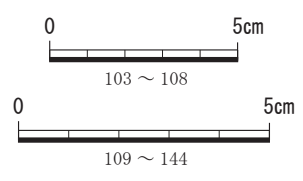
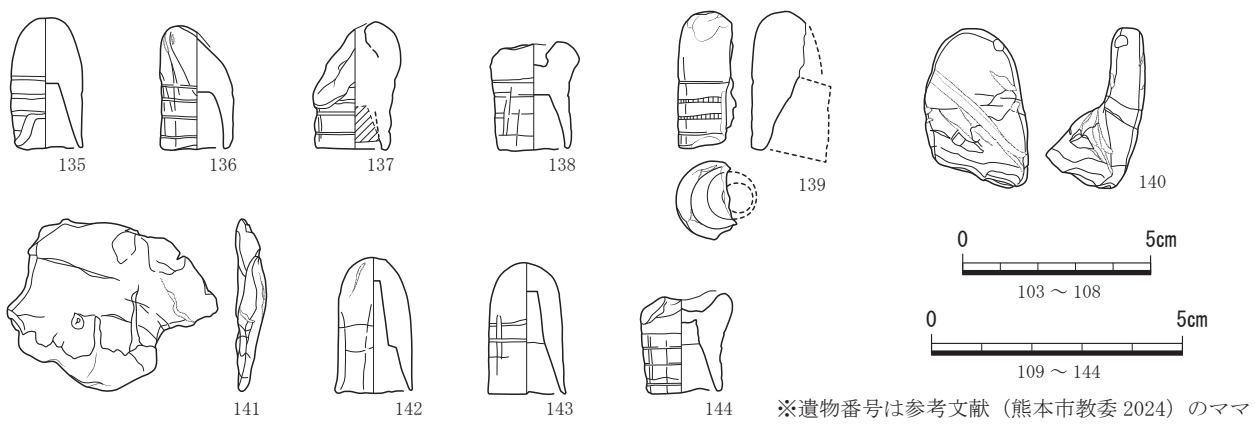
4区



5区



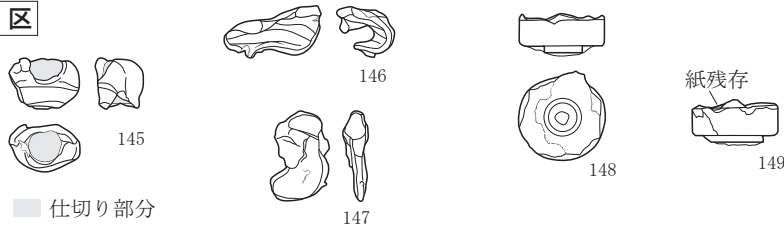
6区



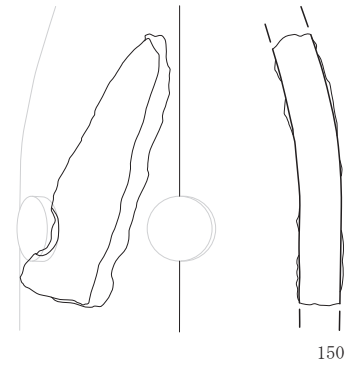
※遺物番号は参考文献(熊本市教委 2024) のママ

第6図 舟底遺跡令和元・2年度確認調査 西南戦争関連遺物3

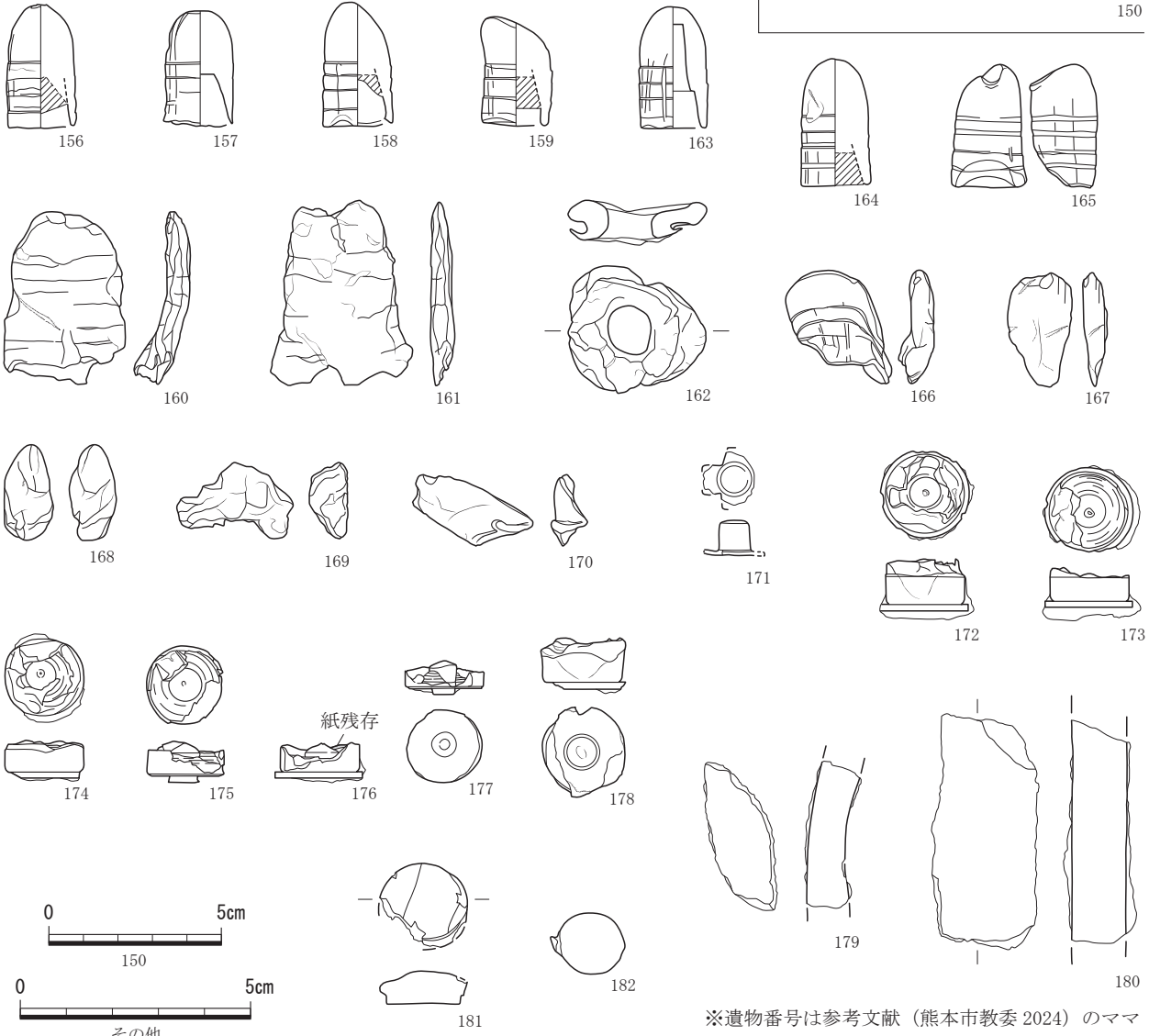
6区



紙残存

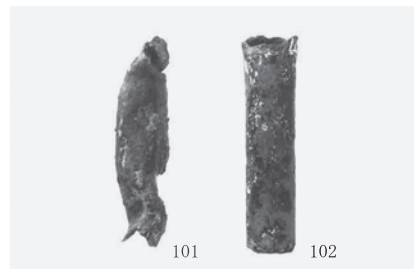
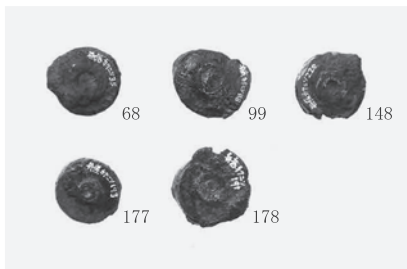


7区



既往調査事例(舟底遺跡②)

※遺物番号は参考文献(熊本市教委 2024) のママ



第7図 舟底遺跡令和元・2年度確認調査 西南戦争関連遺物4

第24表 舟底遺跡令和元・2年度確認調査 西南戦争関連遺物観察表

エンフィールド銃弾 (第5図)

挿図番号	区	栓材/色	腔綫条	備考
91	4区	—	5	円台孔(B類)・見込み刻印「57」、口径0.577インチの可能性

スナイドル銃弾 (第4図～第7図)

挿図番号	区	分類	圏溝			栓材/色	腔綫条	備考	挿図番号	区	分類	圏溝			栓材/色	腔綫条	備考
			本数	形	刻目							本数	形	刻目			
10	1区	P4	4	丸	×	—	不明		61	3区	A2	4	鋸	×	—	不明	
11	1区	P4	4	丸	×	—	5		62	3区	A2	4	鋸	×	陶/灰	不明	
12	1区	P4	4	丸	×	—	5		63	3区	B	4	鋸	×	—	不明	平たく潰れる
13	1区	A1	1	鋸	×	—	5	弾頭木栓残存	64	3区	B	2	鋸	×	陶/灰	不明	
14	1区	A2	4	鋸	○	—	不明		92	4区	A2	4	鋸	×	—	不明	
15	1区	A2	4	鋸	○	—	5		93	4区	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	
16	1区	A2	4	鋸	×	—	5		94	4区	A2	2	鋸	×	—	5	
17	1区	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明		95	4区	B	4	鋸	×	—	不明	
18	1区	A2	4	鋸	○	—	5		123	5区	P4	4	丸	×	—	不明	
19	1区	A2	4	鋸	○	—	5		124	5区	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	
20	1区	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明	平たく潰れる	125	5区	B	4	鋸	×	陶/茶	不明	
21	1区	A2	2	鋸	×	—	5		135	6区	P2	4	丸・鋸?	×	—	5	
22	1区	A2	4	鋸	×	—	不明		136	6区	A2	4	鋸	×	—	不明	
23	1区	A2	2	鋸	×	—	不明	平たく潰れる	137	6区	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	
24	1区	B	4	鋸	×	—	5		138	6区	A2	4	鋸	×	—	5	
25	1区	B	2	鋸	×	—	不明		139	6区	A2	4	鋸	○	陶/茶	不明	失敗作
44	2区	P4	4	丸	×	—	4		140	6区	A2	4	鋸	×	—	不明	
45	2区	A2	4	鋸	×	陶/茶	5		141	6区	A2	4	鋸	×	—	不明	平たく潰れる
46	2区	A2	4	鋸	×	—	5		142	6区	B	1	鋸	×	—	5	
47	2区	B	4	鋸	×	木	5	木栓外れる	143	6区	A2	4	鋸	×	—	5	
48	2区	B	4	鋸	×	—	5		144	6区	B	4	鋸	×	—	5	
50	3区	P4	4	丸	×	—	5		156	7区	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	
51	3区	A1	4	鋸	×	—	5	弾頭木栓残存	157	7区	A2	2	鋸	×	—	5	
52	3区	A2	2	鋸	×	—	5		158	7区	A2	4	鋸	×	陶/灰	5	
53	3区	A2	4	鋸	×	—	不明		159	7区	A2	4	鋸	×	陶/茶	5	
54	3区	A2	4	鋸	○	—	5		160	7区	A2	4	鋸	×	—	不明	平たく潰れる
55	3区	A2	4	鋸	×	陶/灰	不明		161	7区	A2	不明	鋸	—	—	不明	平たく潰れる
56	3区	A2	4	鋸	×	—	不明		162	7区	A2	2	鋸	×	—	不明	
57	3区	A2	4	鋸	×	—	不明		163	7区	B	4	鋸	×	—	5	
58	3区	A2	4	鋸	×	陶/茶	不明		164	7区	B	4	鋸	×	陶/茶	5	
59	3区	B	4	鋸	×	—	不明		165	7区	B	4	鋸	○	—	不明	
60	3区	A2	4	鋸	×	—	5										

既往調査事例(舟底遺跡2)

スナイドル小片・不明小片 (第5図～第7図)

挿図番号	区	種類	圏溝		腔綫条	挿図番号	区	種類	圏溝		腔綫条
			確認数	形					確認数	形	
65	3区	スナイドル小片	1	—	不明	147	6区	スナイドル小片	不明	—	不明
66	3区	スナイドル小片	3	—	不明	166	7区	スナイドル小片	4	—	不明
96	4区	スナイドル小片	2	—	不明	167	7区	不明小片	無	—	不明
97	4区	スナイドル小片	不明	—	不明	168	7区	不明小片	無	—	不明
98	4区	スナイドル小片	1	—	不明	169	7区	不明小片	無	—	不明
145	6区	スナイドル小片	不明	—	不明	170	7区	不明小片	無	—	不明
146	6区	スナイドル小片	2	—	不明						

雷管 (第5図・第7図)

挿図番号	区	形状	使用有無
67	3区	シルクハット	未使用
	見込みに発火剤僅かに残存		
	7区	シルクハット	未使用
171	見込みに発火剤僅かに残存		

スナイドル薬莖 (第5図～第7図)

挿図番号	区	型式	抽筒板 BASE DISK	雷管室 噴出孔
68	3区	ボクサー	鉄製	1孔
99	4区	ボクサー	鉄製	1孔
100	4区	ボクサー	鉄製	1孔
148	6区	ボクサー	鉄製	1孔
149	6区	ボクサー	鉄製	1孔
172	7区	ボクサー	鉄製	1孔
173	7区	ボクサー	鉄製	1孔
174	7区	ボクサー	鉄製	1孔
175	7区	ボクサー	鉄製	1孔
176	7区	ボクサー	鉄製	1孔
177	7区	ボクサー	鉄製	1孔
178	7区	ボクサー	鉄製	不明

砲弾 (第5図～第7図)

挿図番号	区	備考
26	1区	
27	1区	底部片
103	4区	先端部片, 四斤榴弾
104	4区	先端部片, 四斤榴弾
105	4区	底部片
106	4区	
107	4区	
108	4区	底部片
150	6区	
179	7区	
180	7区	

筈翼 (第5図～第7図)

挿図番号	区	腔綫痕
69	3区	有
70	3区	有
109	4区	有
110	4区	有
111	4区	有
181	7区	有

鉛玉 (第4図～第7図)

挿図番号	区	備考
28	1区	鋳バリ確認
29	1区	鉛不足(洞)
71	3区	
72	3区	
73	3区	鋳バリ確認
74	3区	鉛不足
75	3区	鉛不足(洞)
112	4区	鋳バリ確認
113	4区	湯口小孔あり
114	4区	
126	5区	傷は着弾痕か
182	7区	鋳バリ(突起)

摩擦管 (第6図)

挿図番号	区	備考
101	4区	仏式
102	4区	



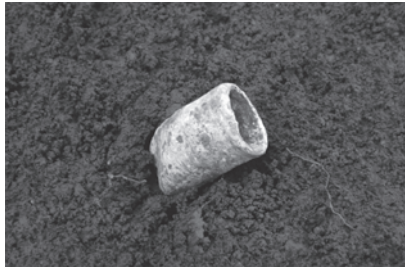
スナイドル銃弾 14



スナイドル銃弾 58



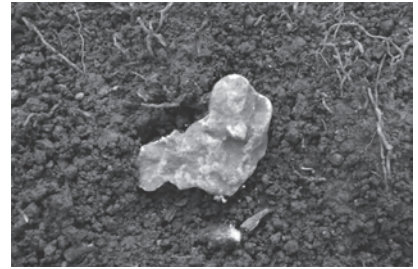
スナイドル銃弾 55



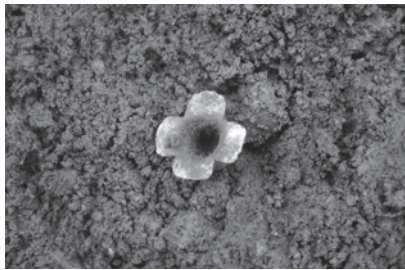
スナイドル銃弾 136



スナイドル銃弾 157



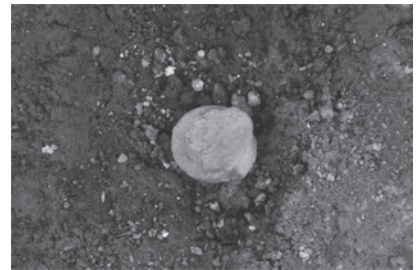
不明小片 169



雷管 67



雷管 171



スナイドル薬莢 99



スナイドル薬莢 175



スナイドル薬莢 177



スナイドル薬莢 178



四斤砲弾 107



鉛玉 182



刀の目貫



鉄製留具



煙管雁首



陶器土瓶

### 3. 藤原遺跡 第2次調査の概要（第8図）

市道拡幅工事に伴って実施した。調査期間は平成25年2月5日～同年3月29日、所在地は北区植木町豊岡字堂出829外、調査面積は400㎡である（第V章第3図）。

西南戦争に関わる遺構は検出されなかったが、少数ながら四斤砲弾片（弾殻・デマレー信管・筒翼）、スナイドル銃弾が出土しており、四斤砲弾片の割合が大きいことが特徴である。このことについて、報告書（熊本市教委2016）では、明治11年（1878）2月に地元住民が熊本県令へ報告した『戦地景況輯録』（植木町・植木町教委1990）の記述を引用している。

3月5日「官軍ハ7第区二俣村へ進ミ賊兵ハ当村字中久保ヨリ谷ヲ隔テ越シノ砲戦」

3月9～10日「二俣村ヨリ中久保ト谷越シノ砲戦」

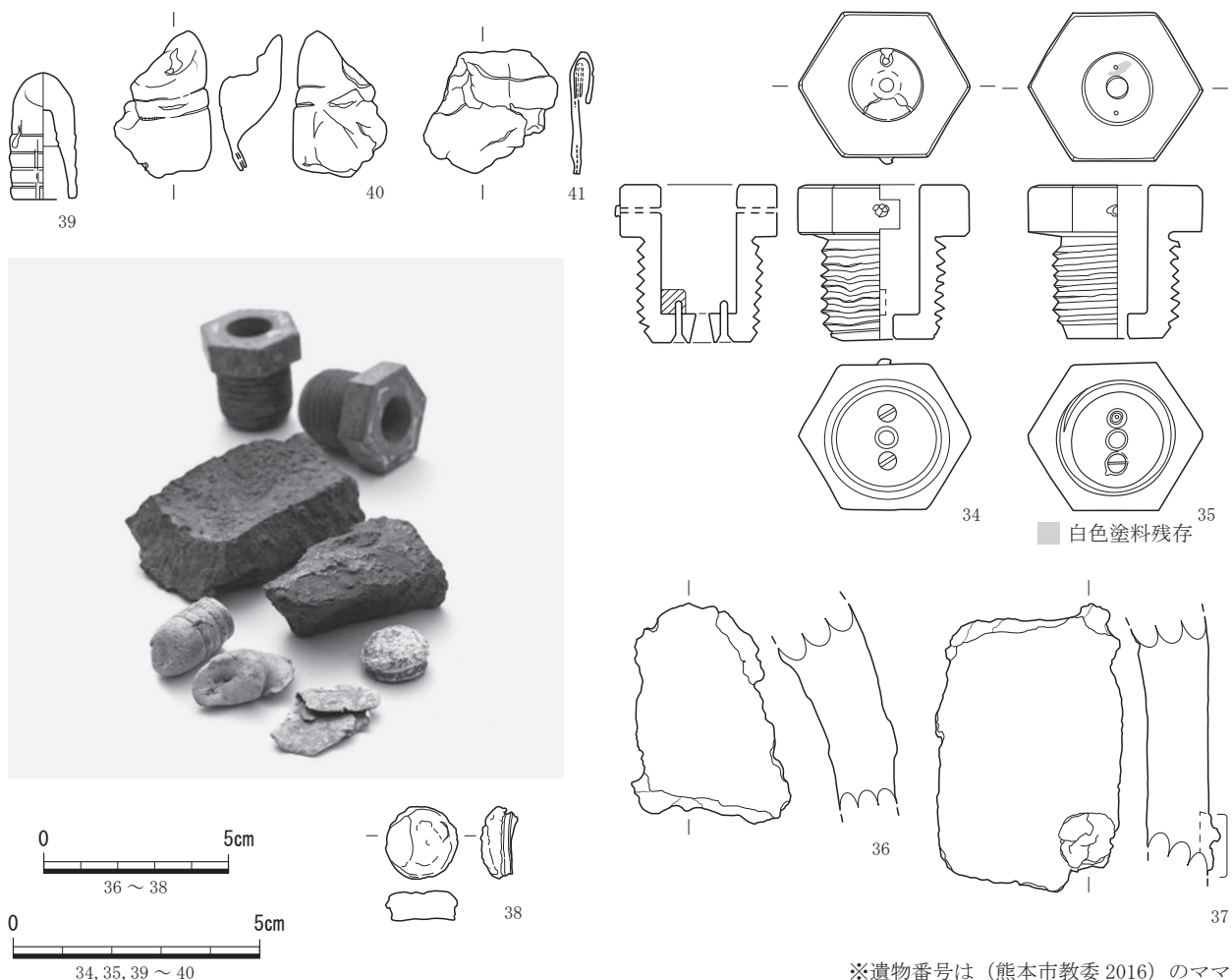
以上から、調査地南西に隣接する中久保集落に薩摩軍砲台が置かれ、谷を挟んで西側約1kmにある二俣台地の政府軍砲台との間で砲撃戦があったとみられること、加えて、玉東町が調査した二俣瓜生田砲台跡（玉東町教委2012）で検出された轍の方向の延長線上に中久保集落があることから、四斤砲弾片は、中久保に向けて瓜生田から撃ち込まれたものが、少しずつ隣接する調査地に着弾したものと想定している。

#### 〔参考文献〕

植木町・植木町教育委員会1990『戦地景況輯録』『西南の役 田原坂資料集 歴史のはざまに』

玉東町教育委員会2012『玉東町文化財調査報告第8集 玉東町西南戦争遺跡 調査総括報告書』

熊本市教育委員会2016『熊本市の文化財第45集 藤原遺跡 市道宿～迎原線道路改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』



第8図 藤原遺跡第2次調査 西南戦争関連遺物